

大口七島

地域の食卓「七島家」

主催：七島家

協力：七島南町町内会・七島南町子ども会・
地域活動団体「^{きらりあん}輝楽理庵」

地域食堂「七島家」は、「今日はみんなと七島家に行こう。近所の人と楽しく夕食を食べよう！」を掲げ、毎月第2、第4の金曜日の16時30分から、七島南町町内会館で開催している。

地域の人たちを大家族と考え、自宅の食卓のような気軽さで食事をし、日常的に声を掛け合える関係づくりを目指している。地域の人なら誰でも利用できる地域食堂として平成30年2月にオープンした。

老若男女、地域の人がつながる場にしたい！



料理を盛り付ける吉岡さん(左)とボランティアスタッフさん

「七島家」は、高齢者の生きがいにつながる小物づくり・販売を主な活動とする団体「^{きらりあん}輝楽理庵」を主催している吉岡さんが、大口七島地区の民生委員である今井さんに、食事の提供を通して「希薄になりつつある地域のつながりを作りたい」という思いを相談したことがはじまり。今井さんは、地域の居場所として「カフェ七島南」を4年前から運営をしており、吉岡さんとは「地域のつながりの希薄さ」について語り合っていたこともあり意気投合。同じ地域課題を感じていた吉岡さんと今井さんが中心となり、「七島家」はスタートした。

切り盛りするのは二人のほかに、七島南町町内会や老人会、子ども会の有志4人ほどのボランティア。最近では、利用者が運営側に回るケースや地元育ちで近くの企業に勤めている人が手伝いを申し出ることもあり、「七島家」があることで「地域の役に立ちたい」という意識が住民の中に生まれ始めている。



笑顔を見せる今井さん(左)とボランティアスタッフの飯窪さん

実家に帰ったような地域食堂



通りから目立つ看板



肉料理は洋風、魚料理は和風

料理は手作りで肉料理と魚料理の2種類があり、利用者がその日の気分で選べる楽しさがある。ご飯と汁物はお代わり自由。毎回、20人ほどの家族連れや高齢者が集まり、テーブルを囲む光景は、まるで盆暮れの親戚の集まりようだ。

「煮物や煮魚は、普段の料理では時間がかかりなかなか作れないので嬉しいです」「近所の方と会話をしながらの食事は楽しいです」と参加した人はみな笑顔。

効果的なPRは口コミが一番。利用者が知り合いを誘ってリピーターになることも多い。子ども会のママたちはネットワークを活かしたPRとしてSNSを活用している。

住民の主体的な地域参加が生まれる！



「おしゃべりロボット」と対話して楽しむ子どもたち

オープンして1年半が経ち、運営や料理などまだ手探りの部分があるという。活動資金は、区社協のふれあい助成金と利用料で賄っている。地域食堂として利用料は少し高いかもしれないが、赤字を出さない運営を考えると利用料を下げるとは難しい。「いきなり利用者を増やすことより、利用する方の意見を取り入れながら、状況に合わせて広がっていけば嬉しい」と吉岡さんと言う。料金を下げずに、地域で喜ばれる食堂を継続させるには、『無理せず少しずつ』の意識が大切のようだ。

「七島家」から派生した住民の嬉しい動きもある。不定期ではあるが、参加している高齢者自らが、散歩会やランチ会を企画し開催している。食事を共にすることでお互いの関係が深まり、住民の主体的な地域参加を呼び起こしている。

12月から来年1月までは、会館の改修工事に合わせて食堂も休みとなる。2月からの再開に向け、地域のつながりが広がる運営を考えている。「これから住民の楽しみや学びにつながる講演会や音楽会なども取り入れたいです」と吉岡さんと今井さん。できることを少しずつ取り入れながら、住民に愛される「七島家」はこれからも続いていく。

【七島家データ】

開催日時：第2・4金曜日

いずれも16時30分～19時30分

* 食事提供は17時30分から

会場：七島南町町内会

利用料：子ども（小学生まで）200円

中学・高校生 300円

上記以外 500円